



① ニヶ領上河原堰堤
多摩川の水を堰止めニヶ領用水に導いている。昭和20年にコンクリート堰となる。

② ニヶ領用水・上河原取水口
ここから川崎の海まで、約32Km「稲毛川崎」のニヶ領用水の出発点。

⑪ ニヶ領宿河原堰堤
昭和49年の粕江水害を機に洪水時の安全・川の安定維持のため、平成11年に可動堰として改築された。

⑫ ニヶ領せせらぎ館
NPO法人多摩川エコミュージアムが管理運営している施設。水辺の楽校をはじめとする様々な活動が行われている。

⑬ ニヶ領用水・宿河原取水口
人々の憩いと安らぎの環境用水として、宿河原堰から多摩川の水を取り入れ、供給されている。

⑯ 平瀬川トンネル
(溝口の街を水害から救う)
溝口の街を流れていた平瀬川を多摩川へ直接放流するため、隧道として築造された。

⑰ 久地円筒分水
平瀬川の下を潜った用水がサイホンの原理の応用により湧き上がり、四つの用水堀に分水されている。

⑳ 濱田橋 (陶芸家 濱田庄司)
幼少の頃に用水で泳いだ濱田庄司。橋の改修に際して「濱田橋」と名づけられた。

散策モデルコース(A)
(ニヶ領の最上流(取水と農地利用)を巡るコース)
スタート(JR南武線 中野島駅)
① ニヶ領上河原堰堤
▼ 約5km 所要時間約2時間
⑩ 五ヶ村堀緑地(稲生橋)
ゴール(小田急小田原線 向ヶ丘遊園駅)

③ 中野島側の「草堰」
草堰は流れに杭を打って、石・土・草などで築く工法で、自然豊かな川づくりがなされている。

⑭ 舟島稲荷神社 (沓稲荷)
わら沓に願をかけて、これを奉納したことから「くつ稲荷」「くつかけ稲荷」とよばれた。

⑮ 南武線ガード下
走行する南武線の下を、少し腰をかかめてぐりぬけることができる。

⑲ 大石橋
大山街道(矢倉沢往還)と交差する江戸時代は文字どおり大きな石橋があり、脇街道の「溝の口・二子宿」として繁盛していた。

⑳ 溝の口駅・高津駅間の道路を横切る
旧川崎堀が大きく蛇行していた「大曲」地点。昭和30年代までは田んぼが広がっていた。

㉑ 弁慶島 (旧川崎堀と旧平瀬川の合流地点)
旧川崎堀と旧平瀬川の合流地点は埋め立てられ柿畑に。「弁慶島」の名前の由来は不明。

散策モデルコース(B)
(多摩川とニヶ領の水辺と緑を満喫するコース)
スタート(JR南武線 登戸駅)
⑪ ニヶ領宿河原堰堤
▼ 約3km 所要時間約1時間
⑰ 緑化センター
ゴール(JR南武線 久地駅)

④ 沖川原橋
この橋の下を旧三沢川が流入している。

⑤ 紺屋前の堰(跡)
堰の名として残っている「紺屋」。用水を利用した藍染屋が近くにあったことに由来。

⑥ 台和橋
山下川が流れこんでいる東生田自然遊歩道に沿って流れる山下川が流れ込み、橋には小泉次大夫のレリーフがある。

⑦ 小泉橋(榎戸橋)
土地の豪農の名がつけられた1700年代この橋は榎戸橋と呼ばれていた。その後小泉利左衛門が石橋をここに普請した。

⑧ 五ヶ村堀の取水口
歩道から小田急線をまたぐとき、登戸、宿河原、堰、長尾を流れる五ヶ村堀の取水口が見える。

⑨ 五反田川との合流
飯室橋で西生田、栗谷、三田地区を流れてくる五反田川と合流する。鯉が集まる地点でもある。

⑩ 五ヶ村堀緑地(稲生橋)
向ヶ丘遊園駅と生田緑地方面への分かれ道にある稲生橋を渡る。用水の脇が緑地となる。

⑯ 八幡下以樋記念碑
明治43年に完成。洪水時に宿河原取水口から余った水を堰の長池に通し、多摩川に戻すための堰。

⑰ 緑化センター
昭和54年に市緑化センターとして市民に開放。栽培展示、生産者指導のほか、季節の移り変わりが楽しめるような展示会も企画されている。

㉒ 二子坂戸緑道(二子側の入口)
二子と坂戸の境を曲がりくねって流れた旧川崎堀の河道を利用してつくられた緑道。

㉓ 石橋供養塔(二子坂戸緑道の坂戸側の入口)
江戸時代、村人が用水を渡って二子方面へ行く唯一の坂戸橋。供養塔には安全祈願がこめられている。

- 凡例**
- 散策こみち
 - WC 公衆トイレ
 - WC 公共施設内トイレ
 - 広域避難場所
 - 桜のみどころ
 - 桃のみどころ

